はじめに

関東、関西の難関私大の受験者向けの講座です。難易度の高い私大の過去問から、良質なものをセレクトしました。筆者はいずれも日本の学問界を代表するような面々であり、その論考は実際の入学試験でもよく出題されるものばかりです。この時期これらの問題にアタックし解説講義を聞くことで、受講生の現代文学力は高い水準に引き上げられます。

またこの講座を最大限実りあるものにするために、予習をし、自分の答案を作ってから講義を聞きましょう。

予習について

全講義予習しましょう。問題にアタックして解答をつくってから授業に参加してください。

復習について

間違えた部分について、同種の問題が本番でも出題されるというつもりで、見直してください。その後、スタディサプリのアーカイブの問題などにどんどんアタックしてください。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。赤／青／緑の三色をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。

解法の手順……**文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……**

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルを見る**　→　**テーマが判明**することが多い。さらには、「○○と○○」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（現代文では、書名をつけることは多い。とくにセンター試験現代文では必ず記載されます！　論説では文章の終わりに、小説では冒頭に書かれるのが普通です）。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわることが多い**）。ただし**選択肢まで読んではダメ**。たとえば五択なら四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。

（3　**論説では、本文最後の数行を先に**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。）
　1と2で充分な見当がつけば、4に移行してOK

4　**本文を冒頭から読む**
プランA……設問の傍線部や空欄にあたるたびに、それらを含む段落を読んでから解答する。選択肢などは、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読み通さないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。
プランB……プランAだとぶつ切りで文章理解のリズムが壊れるとお感じの人は、全文通しで読んでから各問に取り掛かってもよいです。

記述式問題解答へのガイドライン

1　**字数指定の八割以上書く**ことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり0点）

2　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

3　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ1点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

4　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「〜から。」「〜ので。」「〜ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、1点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a　| |人|間|は|…|　→　※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b　|…|…|…|こ|と|　→　※**句点なし！**（1点減点）

設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則

ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものはつけない）

c　|…|…|…|こ|と。|　→　※**句読点は一文字分！**（1点減点）

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

> ○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
> ○対比の表現（AではなくBである）！
> ○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意

……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）

○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。

○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

語 ⇐ 心身

語句 ← 心身の一体性

（例）【心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。】この考察は、「道具」を見直す契機になる。

一文・文 ⇒ 【心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。】

誤りの選択肢の典型例一覧 〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 対比混乱の誤り ………本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2 同一性分断の誤り ……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗。同質性分断**ともいう。

3 正しい対比喪失の誤り ……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手に持ち込んだり、「**C↔D**」といった本文にない対比を持ち込んでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比を持ち込み、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 不当な全称判断 ………本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 不当な限定判断 ………本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょうか）があります。例えば本文では「人間関係全般」について書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 不当な価値判断 （不当な当為判断（とうい））……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

7 **部分的指摘の誤り** ……本文中では、「AともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り** ……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なしの誤り** ……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1～8・10～12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り** ……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味づけをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り** ……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢。**小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り** ……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる** ……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる** ……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

目次

第一講〈論説〉言語論・認識論・哲学論……鷲田清一 p.8

第二講〈論説〉政治論・国際政治論・国家論……杉田敦 p.16

第三講〈論説〉時間論・比較社会論……真木悠介 p.24

第四講〈論説〉メディア論……原研哉 p.30

模範解答…… p.41

復習問題解答…… p.47

第一講〈論説〉言語論・認識論・哲学論

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

もうだれも口にしない言葉だが、何かが誕生することはもともと「うまる」と言った。「生む」（産む）という他動詞に対して、「生まる」という自動詞があった。「切る」に対する「切れる」、「冷やす」に対する「冷える」、「散らす」に対する「散る」のように。それがいつからか、「生まれる」と言うようになった。

考えてみればしかし、「生まれる」という自動詞は、「生む」（産む）という他動詞の受動形でもありうる。「生まれる」とははたして自動詞なのか他動詞なのか。言語史に疎いわたしには、その間の事情はよくわからない。そこで、日本語についての疑問が湧くといつも訊ねる日本語の専門家、金水敏（きんすいさとし）氏に教えを請うた。

金水氏の説明はこうである。日本語においては、他動詞は対象に対する働きかけを、自動詞は対象の無意志的な変化を表わす場合が多い。「うむ／うまれる」も当然、他動詞／自動詞の対として認識されているが、「うまれる」の語形は受動の語形でもある。ただし、日本語の場合、受動文は、たんに「他者の作用を受ける」という受け身の意味を表わすのみならず、それを受ける主体の感情や意志をも表現するための表現形式として発達してきた……。これを前置きとして、氏は実例をひとつあげた。

「テストの時、監督の先生にずっとそばにいられて困った。」

このとき、「いられる」という受動のかたちで、話者の［　　］感情が表わされている。あるいは、「多くの人に愛されたい」というときのように、受動形で主体的な意志を表わすことすらある。日本語において、受動文とはじつは主体性の強い表現なのであり、それゆえに、人間を代表とする有生物を主語とするというのがつねである。しからば、と次に決定的な言葉が続いた。

「この点から見ると、〈うまれる〉とは、たんに〈うむ〉という行為の結果として生じる客観的な出来事というよりは、産み落とされる側のその A立場に身を寄せた表現であるといえる」、と。

畳みかけるように、説明が続く。

たとえば次のような表現の対を見てみよう。「うみたての赤ちゃん」と「うまれたての赤ちゃん」。わたしたちは、産む母の

側に身を寄せた「赤ちゃんをうむ」という表現が使えるのに、「うみたての赤ちゃん」とは言いにくい。これは、すでに生まれている赤ちゃんのほうを表現の中心に据えたばあい、産んだ母よりも、赤ちゃんの側の主体性に着目した「うまれる」という表現がよりふさわしいと感じられるからである。このことは、次の例からも明らかである。ひとは「うみたての卵」とは言うが、「うまれたての卵」とは言わない。が、ひよこについては、「うみたてのひよこ」とは言わず、「うまれたてのひよこ」と言う。これは、卵のばあい、それを表現の中心に据えたとしても、卵に身を寄せた表現を取ることができないからだ。わたしたちは、親鳥の主体性を感じ取ることはできても、卵の主体性を感じ取ることができない。しかし、卵からかえったひよこには主体性を認めることができるので、「うまれたてのひよこ」という表現が可能となる。一点の淀みもない説明である。そしてこのあと、氏は言わずもがなという顔をしてこうつけ加えた。「そもそも親鳥はひよこを産むわけではないのだから、『うみたてのひよこ』などと言えようはずがない」、と。

「うまれる」が自動詞でありながらなぜ受動のかたちをとるのか。その答えは以上のごとくである。決定的なのは、「〈うまれる〉とは、たんに〈うむ〉という行為の結果として生じる客観的な出来事というよりは、産み落とされる側のその立場に身を寄せた表現である」という点である。つまり、ある存在をその存在のほうから見るということ。「生まれる」とは、産んでもらったという含意を強くもつ。このことをまるで純然たる自動詞のようにとらえる現代人は忘れている。〈わたし〉の存在はその出生の時点からして、与えられたものであるということを、である。それだけではない。人間はだれしも、早産というかたちで、いわば未完成のままこの世に生まれ出てくる。他の哺乳類のように、生まれてすぐにみずからの脚で立つことはできない。その生命の維持のためには、そもそもが他者による介助を必要とする存在なのである。

それだけではない。〈わたし〉の名は他者によって与えられる。わたしたちは他者から授かった名を生きる。

さらにそれだけではない。〈わたし〉という存在の看板である顔もまた他者から与えられる。顔ははじめからついているではないかと言うむきもあろうが、B わたしの表情は他者によって分節される。このことは、乳児を前にした母親の態度を思い起こせばよくわかる。母親は、端から見ていて恥ずかしくなるくらいに、「口を大きく動かし、頭をうなずくように振り、目を見ひらき、おおげさな身ぶりで赤ちゃんに語りかける（空間的な誇張）」、「ことばやしぐさが、スローモーションをかけたように、ゆっくりになる（時間的な誇張）」、「笑い、驚き、眉をしかめる（情緒的な誇張）」（下條信輔『まなざしの誕生』より）。このよ

うな母親の対応は、子どものなかで発生しかけている志向性にシンクロナイズし、それを増幅するというかたちで、子どもの経験や表現の分節化を助長するものであろう。子どもの潜勢的な志向性に対する<u>母親のこうした増幅された送り返し</u>（C）のなかで、子どもは世界との関係をすこしずつ理解してゆく。身につけてゆく。

が、さらにさらに、それだけではない。〈わたし〉というものは、どのような他者のどのような他者でありえているかということによって決まる。〈わたし〉という存在が危機に瀕するのは、〈わたし〉がいかなる他者の意識の宛先ともなりえていないときである。いてもいなくても他者になんの影響もおよぼすこともないじぶん、そのような存在はなきにひとしい。そうひとは感じる。愛情や好意の対象でなくてもいい、憎しみの宛先であっても、鬱陶（うっとう）しい対象とされてもいい、それでも他者が無視できない存在としてわたしがあるときには、〈わたし〉は存在する。が、いかなる他者にとっても関心の対象ではない存在になったとき、もはや見棄てられる存在ですらなくなったとき、ひとは<u>〈わたし〉</u>（D）を喪う。

（鷲田清一『死なないでいる理由』角川学芸出版による）

問１　空欄［　　］にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選びなさい。

１　怒りの　　２　控えめな　　３　あいまいな
４　被害の　　５　あきらめの

問２　傍線部Ａ「立場に身を寄せた表現」について。その説明として最も近い意味を表すもの一つを、左記各項の中から選びなさい。

１　弱さを気遣う表現　　２　主体性を認めた表現
３　成長を期待する表現　　４　未来を懸念した表現
５　誕生を祝福する表現

問３　傍線部Ｂ「わたしの表情は他者によって分節される」について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選びなさい。

１　相手によって一つひとつの表情が創られること
２　表情と行為が明確に区分けされること
３　自分の表情にそれぞれの名前がつけられること
４　相手の表情と自分の表情を区別すること
５　自分の表情に相手が意味を与えること

問４　傍線部Ｃ「母親のこうした増幅された送り返し」について。母親の送り返しの具体的な例として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選びなさい。

１「いない、いない、ばーっ」
２「ジュースがおいしいねー、おいしいねー」
３「泣かないでね、いい子だから」
４「ママはあなたといるのが一番うれしいのよ」
５「いたいの、いたいの、とんでいけー」

問５　傍線部Ｄ「〈わたし〉」について。ここで言う〈わたし〉の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えなさい。

イ　他者によってうみ出され、他者によって無化されるわたし
ロ　受動的でありながら意志的に世界に関わっているわたし
ハ　生まれたときから高齢になるまで他者の介助を必要としているわたし
ニ　他者によって意味のある対象とされ、関与されるわたし
ホ　他者によって表情や感情などを形成されている受け身のわたし

問６　左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えなさい。

イ　日本語において受動文は主体的意志や感情を表すことがある。
ロ　人は人間関係の中で誕生し捨て去られていく。
ハ　哺乳類は人間を含めて早産で誕生する。
ニ　一般的に私たちは産む側の立場に立って認識している。
ホ　私は他者の関心の対象となることで自分の存在を確認する。

第一講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　鷲田清一＝わしだ　きよかず（一九四九〜）京都府生まれ。京都大学文学部卒、同大学院博士課程修了。大阪大学総長、京都市立芸術大学学長を歴任。日本を代表する哲学者。朝日新聞朝刊の連載「折々のことば」の筆者

●金水敏＝きんすい　さとし（一九五六〜）大阪府生まれ。東京大学文学部国文科卒。同大学院人文科学研究科博士課程中退。大阪大学教授。日本語学・言語学の研究者

語句

疎い＝うとい→あることに対して的確な判断を下すほどには知識や経験がない様子。また人間関係が親密ではないという意味もある

言わずもがな＝いわずもがな→言うまでもなくわかっていることだが

含意＝がんい→直接的表面的な意味にくわえて別の深い意味を含んでいるということ

分節＝ぶんせつ→ひとまとまりのものを部分に分けること

cf.文節→文の発音上の区切り

志向性・指向性＝しこうせい→心がある方向に向かうこと

シンクロナイズ＝同期すること

潜勢的＝せんせいてき→はっきり表面には出ていないが可能性として潜んでいる

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）この言葉には隠れたガン意がある　①雁　②含　③顔　④玩　⑤元

（イ）忍耐強く関係をイ持する　①威　②委　③囲　④緯　⑤維

（ウ）対象を分セツし詳しく説明する　①説　②切　③節　④接　⑤設

（エ）従来のタイ度を悔いて改める　①耐　②対　③待　④態　⑤滞

（オ）表現をコ張せず素直に語る　①誇　②弧　③粉　④鼓　⑤糊

（カ）新しいカン板に交換する　①監　②観　③看　④患　⑤敢

（キ）西欧重視というシ向性がある　①詩　②師　③思　④志　⑤至

（ク）力を増フクして伝達する　①複　②副　③覆　④復　⑤幅

（ケ）内面的な危キを克服する　①期　②機　③喜　④記　⑤奇

（コ）情チョが激しく揺さぶられる　①著　②貯　③猪　④緒　⑤躇

模範解答

第一講　模範解答

問1　4

問2　2

問3　5

問4　2

問5　イ　2　ロ　1　ハ　2　ニ　1　ホ　2

問6　イ　1　ロ　2　ハ　2　ニ　2　ホ　1

復習問題解答

復習問題　第一講　模範解答

（ア）②　（イ）⑤　（ウ）③　（エ）④　（オ）①
（カ）③　（キ）④　（ク）⑤　（ケ）②　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）含意　（イ）維持　（ウ）分節　（エ）態度　（オ）誇張
（カ）看板　（キ）志向性　（ク）増幅　（ケ）危機　（コ）情緒